

大竹市遺族会

大竹市遺族会概況

■沿革の概要

大竹市遺族会は、昭和二十九年九月一日市町村合併促進法に基づいての大竹市制施行後昭和二十九年十月、会員の相互援助と団結を強固にして戦没者遺族の擁護、福祉の増進を図ることを目的として、合併前の大竹町、小方町、玖波町、栗谷村、友和村（現佐伯町の一部）の一部松ヶ原地区を単位に支部として組織し、会長に上杉隆雄氏を推載して発足した。

■主な役員（◎印現職）

会 長	上杉 隆雄（昭和二十九年十月～昭和三十三年三月）
岡田 勝	（昭和三十三年四月～昭和五十二年二月）
醍醐 英昭	（昭和五十二年二月～昭和五十八年十二月）
畠中 時義	（昭和五十九年四月～平成五年四月）
昭和五十八年十二月から五十九年三月まで	
会長代行	

◎松崎 月夫（平成五年四月～）

副 会 長 （各支部長を充てる）

大竹支部 畠中 時義 ◎若本 修助
小 方 岩本朝次郎 ◎山田 政夫

◎片岡 利夫（立戸）

玖波 小城 林 ◎中本 信夫
栗谷 ◎松崎 月夫

松ヶ原 林原 熊一 中山 作一
◎広兼 重喜

婦人部長 中山リツ子 ◎舩本 久恵
青壮年部長 安井 義巳 ◎若本 修助
会 計◎松本 春高

■会 費

正会員 二、〇〇〇円（平成二年改正）
準会員 一、〇〇〇円
改正 昭和五十八年度 一、五〇〇円
昭和五十三年度 一、二〇〇円
昭和四十五年度 一、〇〇〇円

■活 動

〈慰霊祭等について〉
◎昭和三十二年八月、十三回忌戦没者追悼法要
主催 遺族会
方法 仏 式

場所 大竹小学校講堂

○昭和四十三年十月、建立した慰霊碑（碑文は、靖国神社筑場藤麿宮司ご揮毫）の除幕式と戦没者慰霊祭

主催 遺族会

方法 神 式

場所 大竹招魂社

○昭和四十四年八月東本願寺裏方をお迎えして戦没者追悼法要を行ないご法話を聴く

主催 遺族会

方法 仏 式

場所 大竹中学校講堂

○昭和五十二年十月三十三回忌戦没者追悼法要

主催 遺族会

方法 仏 式

場所 大竹中学校講堂

○昭和五十五年五月終戦三十五周年記念戦没者遺族大会（アトラクションとして二時間三十分浪曲演歌、万才、奇術、歌謡曲などの演芸を行なう。）を挙行、功労者に感謝状贈呈

主催 遺族会

場所 大竹市総合体育館

経費 約一〇〇万円

○昭和六十年十月終戦四十周年を記念して建立した石碑（碑文「平和の礎」は書道家織田金次郎氏ご揮毫）の除幕式と戦没者慰霊祭

主催 遺族会

方法 神 式

場所 大竹招魂社

経費 約二〇〇万円

○毎年四月戦没者慰霊祭

主催 大竹市戦没者崇敬会

方法 神 式

場所 大竹招魂社

○昭和五十三年六月十二、十三日皇居拝観と靖国神社団体参拝、团长畠中時義以下四十二名

○昭和五十四年十月三十日から十一月二日の四日間皇居清掃奉仕と靖国神社団体参拝、团长畠中時義以下四十三名

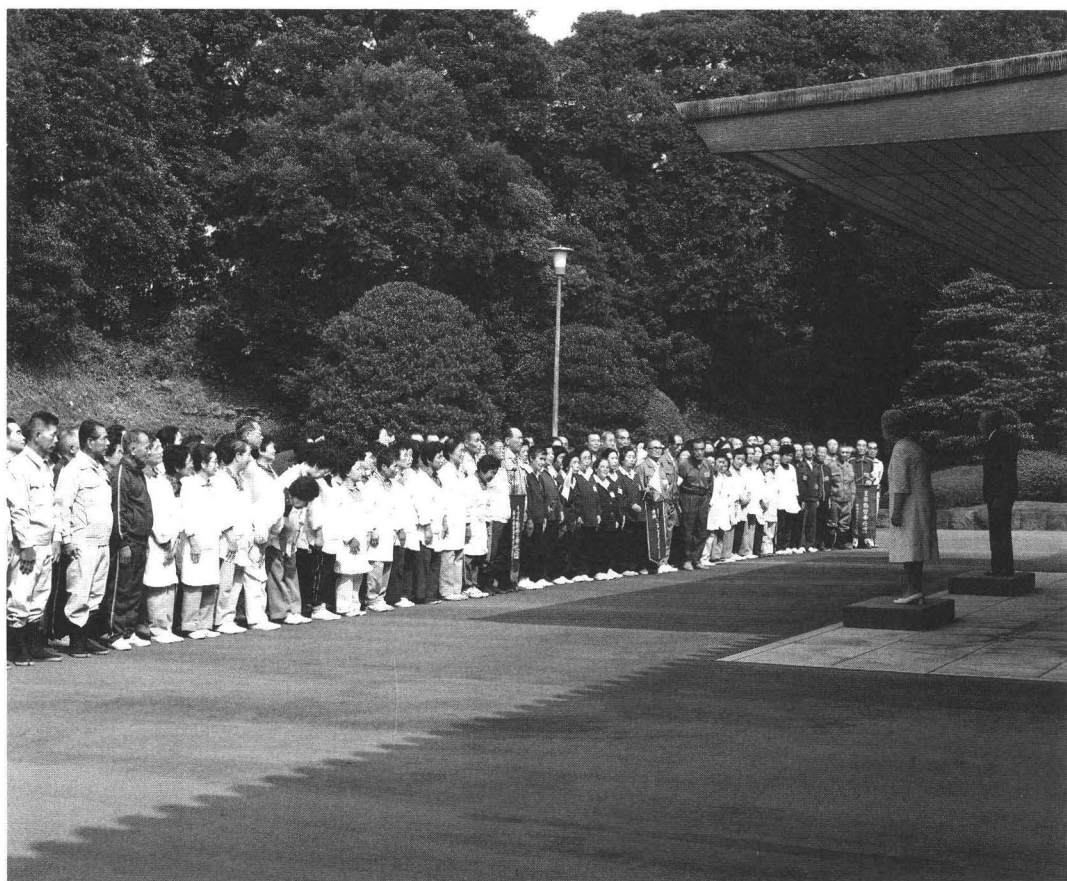
〈継続実施のもの〉

○全国戦没者追悼式へ代表参列、国・県で計画実施の団体参拝・海外戦跡慰霊巡拝への関係者の参加援助

○春季広島護国神社で行なわれる戦没者慰霊大祭へ団体参拝

■ 忠魂碑など

○別添写真のとおり



天皇陛下のお言葉

昭和十八年十月四日午前四時十分
於富田皇座陛下公事畢也

勤勞に苦勞に思ふ事あり

皆の元氣は汝に接し
うん！うん！

思来

どうか今後とも 貴国社会
の名譽にその努力に励んで
いくことを希望します

十月五日 大庭辰儀
 菊地さんへ
 謹啓



皇居富士見櫓前



皇居富士見櫓前 (S54.11. 2)



広島県遺族会靖国参拝団（於皇居、1964）



奉仕を終り靖国神社へ参拝記念（S58.10.6）

皇居清掃奉仕団宿舎にて、岸田文武先生来舎の際の記念写真
(S 58・10・2夜)



大竹市遺族会
(S 58・10・6)



東宮御所の奉仕団休憩所にて、皇太子殿下とお逢した後の休憩、他の奉仕団と共に（大竹遺族会）



皇居清掃奉仕団
(大竹市)





誠忠碑 (大竹市)



忠魂碑
(大竹市木野1丁目)

慰霊 (大竹市)





あとがき

今年平成五年は、冷夏長雨による史上最悪と言われる凶作に伴う米不足が大きな問題となっている。

戦前主食は勿論生活物資ほか全般に亘る物不足にも、聖戦、東洋平和国歌国民の安泰幸福のためと耐え忍び、戦後は戦争によって最愛の肉親を失った失意の中にも涙をかみ祖国の復興と繁栄に汗した苦しかった往時を顧み、GNP世界第二位にまで経済成長した現状に浸るとき戦没者への思いがよみがえり感真に無量である。

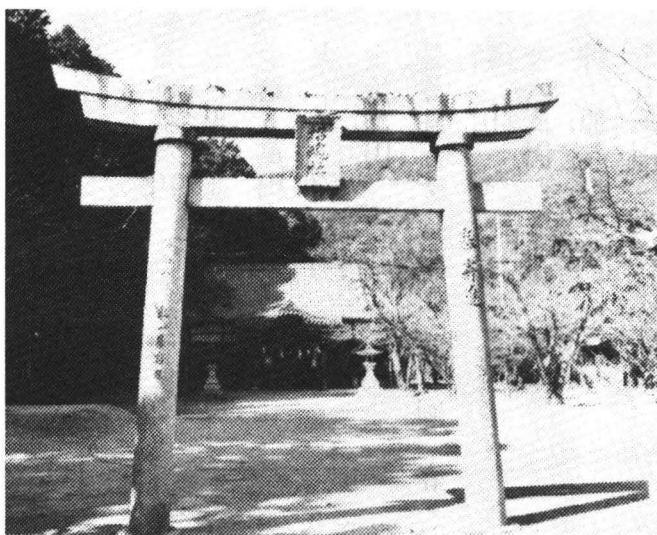
遺族会も、戦後二十才代であった会員が早や古稀の境に入る程に高齢者の組織となり今後の活動に一抹の寂しさが感ぜられる。

国、県等を通じて遺族の援護が今日まで拡充改善されてきたが今後也更なる向上に向かって団結を強め、目的の達成を図らなければと考える。おわりに、資料不足によりやむなく記憶に頼ったために正確を欠いた点についてはお許しをお願いする次第である。

大竹市招魂社

名称 大竹市招魂社
鎮座地 大竹市白石一丁目四
例祭日 毎年四月第三日曜日
創建 明治三十九年三月
祭神数 一、四五七柱

大竹市招魂社は、明治三十九年三月権現山上に建立されて、日清戦争、



大竹市招魂社

北清事変、日露戦争の戦没者を奉斎し、招魂祭が執行された。

昭和四年には大竹町と油見村の合併により油見村の戦没者を合祀し、昭和九年四月、権現山上の招魂社をはじめ誠忠碑や凱旋記念碑は白石の大滝神社境内に遷座された。

昭和二十一年四月、復員帰郷した戦友が大竹招魂社奉賛会を結成し、武装した占領軍の立哨兵監視の下、通訳を置くという異常な状況下で招魂社が執行された。

その後昭和二十六年には木野村が合併され、同二十九年には大竹町、小方町、玖波町、栗谷村、友和村松ヶ原が合併されて大竹市となり、これらの地区出身の戦没者が合祀され、ご祭神数も千四百五十七柱と地区招魂社としては群を抜いている。

昭和三十年四月には遷座二十周年記念事業として、大竹市招魂社奉賛会、同遺族会、同県道連盟の協同により、道場造の拝殿を新築し、同四

十二年四月諸般の情勢に鑑み、「大竹市招魂社奉賛会」を「大竹市戦没者崇敬会」と改称し現在に至っている。

御 由 緒

大竹市招魂社は大竹市出身者にして明治以後官命または公務により軍に従い、戦禍を被り悠久の大義に殉じ護国の神となられた方々の御霊を奉祀している。

明治三十三年権現山の麓の三叉路の傍に大竹村により、日清戦争北清事変の従軍者の凱旋記念碑が建立された。

明治三十九年三月大竹小学校で挙行された日露戦争凱旋祝賀式の後、権現山上に大竹招魂社が建立されて、日清戦争北清事変日露戦争の戦没者を合祀し、在郷軍人会によって招魂祭が執行された。

大正三年三月大竹町と油見村の協同により権現山上に誠忠碑が建立された。

昭和四年大竹町と油見村が合併し、油見村の戦没者を合祀した。

昭和九年四月既に諸用地造成のために山容を失いつつあった権現山上の大竹招魂社及び誠忠碑は、山麓の凱旋記念碑と共に白石一丁目の大滝神社境内に遷座した。

昭和二十年八月六日米軍によって広島市に原爆が投下され、たまたま当日大竹町小方町玖波町より広島市に出勤した義勇隊員や動員学徒の被爆戦没者数はおびただしく、後その写真は他の戦没者の写真と共に招魂社の拝殿に多く掲げられている。

昭和二十一年四月前年大東亜戦争終戦により九死に一生を得て復員帰

郷した者が相集い、大竹招魂社奉賛会（会長 所義彦）を結成し、占領軍の武装した立哨兵監視の下、通訳を置いて、亡き戦友の慰霊招魂祭を執行した。

昭和二十六年大竹町と木野村が合併し木野村出身戦没者を合祀した。

昭和二十九年大竹町、小方町、玖波町、栗谷村、友和村松ヶ原が合併して大竹市となり、祭神の出身地を大竹市全域に拡大して合祀した。

昭和三十年四月大竹市招魂社遷座二十周年記念事業として、大竹市招魂社奉賛会（会長 所義彦）大竹市遺族会（会長 上杉隆雄）大竹市県道連盟（会長 陣場傳吾）の協同により、従来例祭に遺族を初め参拝者が多く拝殿狭小のため之を祝詞殿とし、道場造の拝殿を新築した。

昭和四十二年四月大竹市招魂社奉賛会（会長 長門峯政）を大竹市戦没者崇敬会と改称した。

昭和四十三年十月大竹市遺族会（会長 岡田勝）により慰霊碑が建立された。

昭和四十九年九月大竹市招魂社遷座四十周年記念事業として、大竹市戦没者崇敬会（会長 長門峯政）大竹市遺族会（会長 岡田勝）が協同して、千四百五十七柱の神霊録を奉納した。

慰霊祭は大竹市戦没者崇敬会の主催により毎年四月に執行している。

昭和五十九年四月

大竹市戦没者崇敬会

明治三十三年建設(黒石)

招魂社
左側の庭

凱戦記念碑

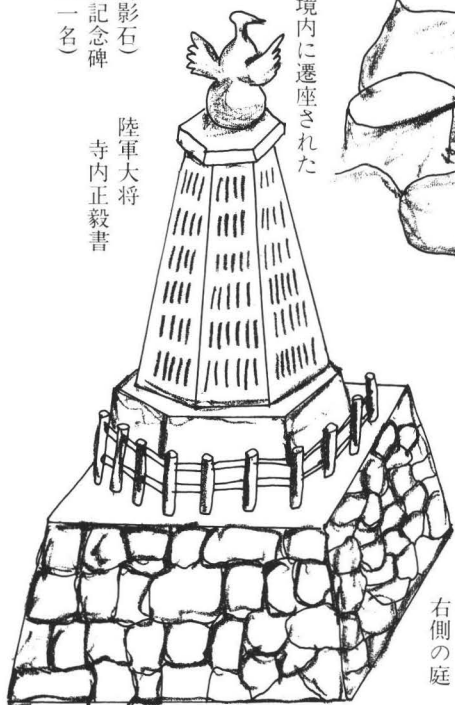
陸軍大将伯一爵
野津道彦書

権現山頂より昭和九年四月招魂社境内に遷座された

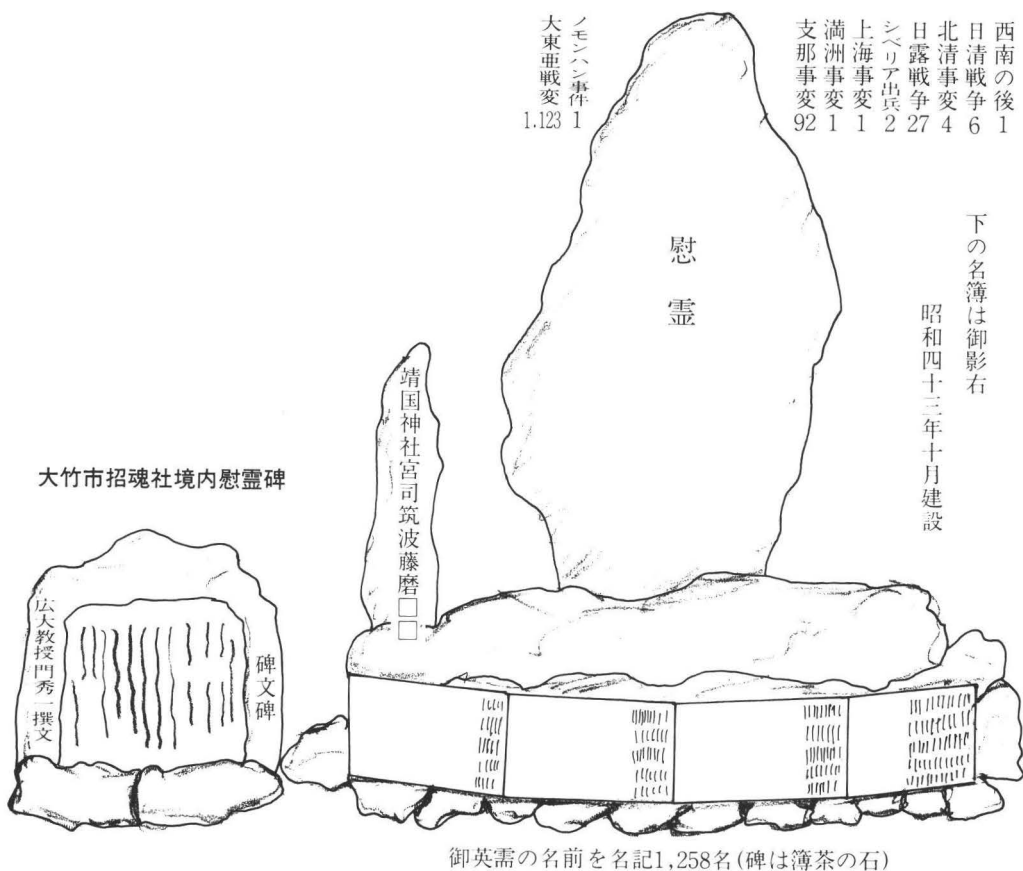
誠忠碑

大正三年三月建設(御影石)
明治三十七年八月戦没記念碑
(二三一名)

陸軍大将
寺内正毅書



招魂社
右側の庭



大竹市慰霊碑忠魂碑の榮

碑 文

昭和四十九年建設、小方町遺族会により建設

(大龍神社境内 大竹市白石一丁目八一六)

○凱旋記念碑 一

明治三十三年建設

権現山麓の三叉路傍より大滝神社境内に遷座された(昭和九年四月)

現在地に、明治二十七、八年戦没者記念碑

○誠忠碑 一

大正三年三月建設 明治三十七、八年戦没記念碑

大竹村々長 小田武右衛門、陸軍大將 寺内正毅書

○慰霊碑 一

昭和四十三年十月建設

大竹市遺族会々長 岡田 勝、靖国神社宮司 筑波藤麿書

○碑文碑 一

遺族会役員集文 広大門秀一氏撰文

○平和の礎 一

昭和六十年十月建設

大竹市遺族会々長 畠中時義、織田金次郎先生書

○忠魂碑 一

大竹市木野一丁目山頂

昭和十年建設、在郷軍人の方々の手により建設

○慰霊植樹の碑 一

大竹市小方一丁目八一

明治改元より時移り星変りここに百星霜、その間、ある時は大陸の戦野に、ある時は南溟の涯に国に殉じて、花の命散せしもの少からず。はたまた、世界最初の原爆に逢いて痛恨の最後を遂げたるもの多し、思うに今日の平和も繁栄も、これら英霊の犠牲なくしてはあり得ず。我等遺族のもの悲痛の中より発起しここに、この塔を建立す。英霊よ安らかなれ

昭和四十三年十月吉日

大竹市遺族会

広島大学教授 門 秀 一 撰文

(大竹市遺族会婦人部長 舛本久恵記録)

五十年を顧みて

大竹市後飯谷 川 本 夕力代

真珠湾攻撃が始まった、大東亜戦争も昭和二十年八月の広島、長崎の原爆投下で終戦となった。思い起せば、五十数年前、一枚の召集令状で祖国の為と出征して行った主人、昨日の様に想出されて来ます。戦時中から終戦後、幼い子供を連れて農家で働いて来た私、幸い自作で父母妹達と留守を守って来ました。三十三年頃未亡人として初めて靖国神社へ参拝しました。小方玖波の人六人で一緒に参りました。その時のお友達

も三人は亡くなられ、二人は消息不明です。その時の皆様の苦労話を聞いて私はまだ不幸中の幸だと思いました。年老いた父を助けて田甫や畑仕事、今思えば年中良く働いたものだと思います。

今は長男も会社勤めをして、自家用の野菜を作るだけです。口数の少ない長男が先日、夕食の時、親父が居たら一緒に晩酌出来ただろうがと云った、一言に私が返事が出来ませんでした。生後半年余りで戦地へ行った、父の顔も知らない長男が、今五十才以上になって、二人の子供の父親として、平凡な日々を過ごしていますが、ふと思出した一言でしょう。でも私の胸には強くひびきました。今にしてつくづく二度と戦争は御免だと思います。原爆の朝は大豆畑で草取りをしておりました。ピカッといなづまがしたと思ったら東の空が真赤になって高い山をくりぬく様なごうつと云う、すさまじい音がして、山ごと崩れそうなひどい地ひびきでした。大竹市の山間部に住む私の家は、その頃国鉄駅まで歩いて出れば二時間許り、福山の舞台に入隊した主人に子供を背負って、面会に行った事。終戦後二十一年九月戦死の公報を受取った事。小方町の元役場で合同葬儀をして貰って、お骨を受取って帰った事。今は走馬灯の様に頭に浮んで来ます。

現在の平和があるのは多くの人々が戦死した、お陰、またあの頃の全国民の愛国の精神のたまものと思います。地球上では、今尚、あち、こち、で紛争がありますけど、一日も早く世界の平和が来ます様心からお祈り致します。